

平成30年度「ともにプロジェクト」の取り組み状況

A 障がいのある人とない人の交流の機会の創出

① 学校における障がいのある人との交流

障がいのある人との交流を通じ、障がいへの理解を深め、地域の中で障がいのある人と助け合い支え合うことを学び、「こころのバリアフリー」を推進する。各学校と連携をとることができる団体・施設の情報を整理し、各学校と団体・施設をつなぐ取り組みを推進する。

H30 → ゲストティーチャーへの謝礼補助を実施。
(実績：小学校13校、中学校2校、計15校)

【実例】 ブラインドサッカー体験、アイマスク体験、視覚障がい者による災害時の体験談を聞く、盲導犬の仕事の様子を観察、車いすでの移動の様子の見学 等



② まちなか障がい福祉フェスの開催

イオンモール新潟南にて開催された「新潟市フェア」にて、障がい福祉の特設ブースを設置。まちなかほっとショップと連携し、周知啓発を実施。

H30 → 新潟市フェアに特設ブースを出展
・PR用品の配布 ・認知度アンケートの実施
・まちなかほっとショップの出張販売 等



③ 公民館との連携

多様な方が利用する公民館と連携することで幅広く周知。

H30 → 年度末にクロスパルにいがたにてパネル展示を実施予定。

B 一般企業への周知啓発

① 企業との連携（バス停に障がい者アートを）

バス停というまちなかの身近な空間を活かし、障がい者アートを展示。連節バス内でのアート展示も行い、障がいへの理解を深めてもらうきっかけづくりに。

H30 → 【展示場所】市役所前バス停、新潟駅前バス停、連節バス車内



③ 合理的配慮事例の募集

市内企業で行われている「障がいのある人も働きやすい職場づくりに向けた取り組み」を募集。事例集として広く紹介し、これらを普及させていく。

H30 → 市公式ホームページ内にて継続的に募集。



② とともにプロジェクト推進店

共生社会づくりに関心を有する企業間が繋がるネットワーク構築について検討・準備を実施。

H30 → 第1回実行委員会を開催。事業に使用するアートポスターのプロトタイプを制作。

C わかりやすい広報

① ロゴマークの作成

公募により作成したロゴマークを、ともにプロジェクトに関する広報物などにおいて積極的に活用した。また、新潟市内の様々な組織による自主的な活動においても、ロゴマークが活用された。

H30 → とともにプロジェクトの広報物での使用や、各団体における自主的な活用

【ロゴマーク使用申請件数】19件



② ヘルプカードの作成

ヘルプカードやヘルプマークについては、新潟県と連携して普及していく。

H30 → ヘルプカードについての情報収集
【今後】新潟県と連携して配布。

③ 動画・ホームページの作成

ともにプロジェクトのホームページを、新潟市公式ホームページ内に作成し、事業内容や、過去のイベント内容などについて、写真付きで紹介した。また、事業内容の一部については、市公式Facebookでも取り上げてもらい、認知度向上に取り組んだ。

H30 → 「ともにプロジェクト」のホームページ内のコンテンツ数を大幅に増強。関連事業や過去の実績を紹介。